

## 今こそ求められる 「目利き力」

執行役員  
保険ソリューション事業本部副本部長  
**安丸 徹**



2016年は、リオデジャネイロ・オリンピック／パラリンピックをはじめとした大規模なスポーツイベントが、世界各地で多数開催されている。

筆者も、主にテレビの画面を通してではあるが、多くの競技を目にする機会があり、選手たちの活躍に一喜一憂しながら熱心に応援することも数多くあった。そのような中で、ふと、競技の勝敗に影響を及ぼす要素とは一体何なのかということが、非常に気になった。

スポーツには、個人で競うものもあれば、チームで競うものもある。また、野球やゴルフのように、道具を用いるものもあれば、陸上競技や水泳などのように、ほぼ己の肉体のみを用いるものもある。このようにスポーツと一言でいっても実に多種多様であるが、こと勝敗に影響を及ぼす要素という点を考えた場合、「2つの内部要素」と「3つの外部要素」が重要なのではないだろうか。

2つの内部要素とは、すなわち「競技者の能力向上」「勝利に向けた戦略の優劣」であり、3つの外部要素とは、「競技ルールの変更への適応」「競技フィールドへの適応」、そして「優秀な用具の選択」である。

2つの内部要素である「競技者の能力向上」や「勝利に向けた戦略の優劣」が、勝敗の行方に大きな影響を与えることは自明であるが、3つの外部要素については多少説明を要するかもしれない。「競技ルールの変更への適応」について、ラグビーを例にとってみよう。ラグビーは、ルール変更が非常に多い競技として知られている。現在は大きな得点が得られるためラグビーの醍醐味といっても過言ではないトライについても、当初は単にゴールキックの権利を得

るための行為であったらしい。こうしたトライについてのルール変更により、ラグビーという競技の進め方が大きく変わったのである。

「競技フィールドへの適応」と「優秀な用具の選択」に関しては、ゴルフを例にとると分かりやすい。ゴルフにおいては、競技フィールド（ゴルフコースやそのときの気象条件）にいかにか適応できるか、いかに優秀な用具（クラブやパター）を採用するかが、勝敗の行方に大きな影響を与える。そして、これらの外部要素が、内部要素である「勝利に向けた戦略の優劣」にも大きな影響を及ぼす結果となっているのである。

では、外部要素を強化するためにはどのような能力が必要となるのか。

競技ルールに関していえば、ルールが変わった場合の適応体制を早期に構築する能力であろう。競技フィールドに関していえば、その状態をいち早く把握する能力、および、さまざまな競技フィールドでの経験値を変換・適応する能力となるであろう。また用具に関していえば、優劣を判断する「目利き力」といったものであろう。

それぞれの競技者は、さまざまな競技フィールドでの経験を積み重ねることや、新たな用具を率先して使用するといったことで、内部要素の強化と並行して、これらの能力強化のための取り組みを日々実践しているのではないだろうか。

翻って、ビジネス全般を考えた場合、実に多くの点でスポーツとの共通点があるように感じる。たとえば金融業界に置き換えてみると、自

由化の推進という「競技ルールの変更への適応」に順次対応しなくてはならないだろうし、グローバル展開の推進といった新たな「競技フィールドへの適応」も求められている。また、FinTechやIoTに代表される「優秀な用具の選択」については、話題にならない日がないような状況である。まさに、外部要素の変化への対応は、多くの企業における大きな関心事となっている。

特に今後は、「用具」（技術）の進化により、自らのフィールドへの他業界からの進出を招くこととなったり、逆に、自らが他のフィールドに進出したりすることも可能となってくる。まさに、攻めに対しても守りに対しても、「優秀な用具の選択」が最も重要な課題の一つとなる。そういった状況では、用具に対する「目利き力」の養成が、ますます重要となってくるように感じる。

しかし「目利き力」というものは、実践の中でこそ身につくものであり、また一朝一夕で身につくようなものでもない。地道に、調査・研究・実践を繰り返すことによって、はじめて身につくものである。とはいえ、目についたもの、耳に触れたものを手当たり次第に試してみるといっても現実には難しい。候補とする「用具」（技術）選定のための評価軸の議論はしっかり行い、その上でいち早く行動を起こすことが重要となろう。

その際は、それぞれの企業のビジョンに沿ったものであるのか、自らの強みを強化できるものであるのか、あるいは弱みを補完できるものであるのか、そのようなものが評価軸の候補となろう。

（やすまるとおる）